

研究紹介ミニ講義

「金相学と磁性・超伝導」



吉村 一良氏
理学研究科 教授

よしむら・かずよし：1958年生まれ。1986 本学大学院工学研究科博士後期課程研究指導認定退学、1987 本学工学博士、1986.4 福井大学工学部応用物理学科助手採用。1988.10 本学理学部化学科助手、1993.12 同助教授、1995.4 同研究科化学専攻助教授、2002.3 同教授、現在に至る。

京大職組理学部支部長を3期務め、2011年度京大職組中央執行委

ここ数十年の間に多くの科学技術がわれわれの予想を遙かに超えて進歩している。

それを支えているのは新規な物質 (Material) の開発であり物質化学 (Material Chemistry) の研究なくして現代のような科学技術の発展はありえない。

金相学研究室では、金属元素を含む無機化合物を対象とし、化学的な見地から、高温超伝導など新たな量子現象を示す新物質を探索・開発することを目標にしている。

特に 21 世紀の材料をになうと期待される強い電子相関をもった系を中心に研究を行っている。今回はミニ講義として、超伝導研究についてなるべくわかり易く紹介したい。

講義日時：2012年8月30日(木)12:10~12:50

USTREAM での講義ライブ中継を下記 URL で視聴できます

www.ustream.tv/channel/union30course

京大職組では 2011 年8月より概ね月1回、教員組合員に依頼して、昼休み時間中に研究紹介のミニ講義を実施しています。講義はライブ中継と収録をしており、Web サイトに公開しています。今年度分から講義ライブ予告や収録済み講義を職員組合ニュースに掲載します。

お申し込み

FAX:075-751-8365
Mail:join@kyodai-union.org

ご記入頂いた事項は「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、組合活動情報のご提供、組合費徴収などの事務のために適切な取扱をいたします。

連絡先

京都大学職員組合 事務所
〒606-8317
京都市左京区吉田本町
TEL:075-761-8916
FAX:075-751-8365
内線:7615(本部地区)
Mail:public@kyodai-union.org
URL:www.kyodai-union.gr.jp/

職員組合ニュース

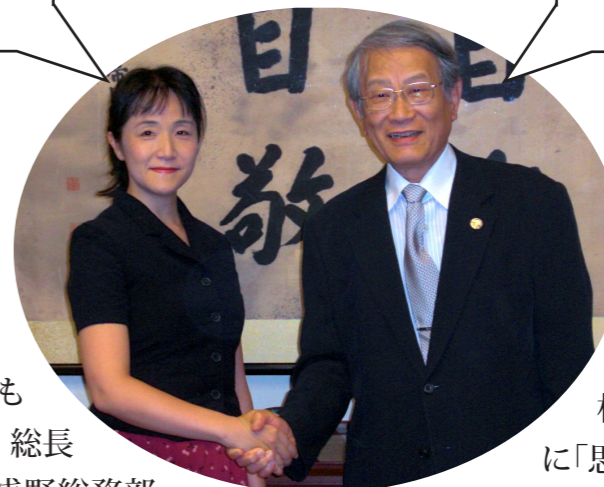
〒606-8317 京都市左京区吉田本町 TEL:761-8916 内線:7615(本部地区) FAX:751-8365 URL:http://www.kyodai-union.gr.jp/ Email:office@adm.kyodai-union.org

京大を良くする思いは同じ、大同することはできる

京大職組の役員交代にあたり
総長との会見・懇談
2012年8月9日

京都大学を良く
してゆくため、
一致できる事は
力を合わせて
やってゆきたい。

本当にそのとお
りだと思う。対
立する立場もあ
るが、大同する
ことはできる。



京大職組は 2012 年 8 月 9 日、松本紘総長と懇談を行いました。これは京大職組新執行部の紹介を兼ねたもので、毎年行われています。総長側からは総長、塩田理事、浅野総務部長が、組合からは高山委員長、吉村、道下、竹中副委員長、石田書記長、辻、栗山書記次長が出席しました。

高山委員長は、「世界トップ水準の研究・教育・医療機関をめざして良い京都大学を作りたいという思いは組合も総長と同じ。大学の基盤自体が危機的な状況になっている。日本の高等教育予算の水準はたいへん低く、このままでは途上国にも追い抜かれかねない。大学でも運営費交付金が削減されていけば、国や国際社会を支える人材が確保できなくなる。学生が意欲をもって学び、教職員が安心して働ける環境が必要。国立大学の置かれている危機的状況に対処するため、そして京都大学を良くするため、組合は、

一致点での総長との有形無形の共同を追求して行きたい。」と述べました。

松本総長も、高山委員長の発言に「思いは全く同じだ。異論はない」として、次の様に述べました。「京大がや

らなくては、と思ってくれる世間の雰囲気はどう作るかが大切。給与は法人が定めるところになっているが、国の例を踏襲しているところがほとんど。これでいいのか、ということは私も痛感している。今後一緒にやりましょう。対立する立場もあるが、大同することはできる。それは高山委員長の言うとおりに思う。」

また、学生の教育環境改善への思いも述べ、「職員組合も一緒になってやってほしい。力を合わせてやっていきたいと仰っていただいた。本当にその通りだと思う。今後ともよろしくお願ひします。」と述べ、和やかな雰囲気のもとで懇談を終えました。

京都大学職員組合 加入申込書

ふりがな氏名:	性別 男・女	生年月日 西暦 年 月 日
所属部局:	部署:	
職種/職名:	(例: 教員/准教授)	
雇用形態:	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 有期雇用 <input type="checkbox"/> 時間雇用 <input type="checkbox"/> 再雇用 <input type="checkbox"/> その他 ()	
組合費:	<input checked="" type="checkbox"/> 給与控除(通常はこちら) <input type="checkbox"/> 給与控除以外の徴収法を希望()	
E-mail:	@	

いずれかに○を(1. 仕事用 ・ 2.個人用) ※組合からの情報を受けるのに便利です。携帯メール可

8月からの賃下げ実施に対して声明を発表

2012年8月1日
京都大学職員組合 中央執行委員会

「賃金引き下げの8月実施を撤回し、7月までの水準に戻すこと。
削減された賃金を教職員に返金することを要求します。
運営費交付金削減の前提が間違っており、議論をやり直すこと。」

団体交渉は、職員組合が大学法人側から賃下げの提案の説明を受けただけで、論議は未だ半ばであり、合意はされていません。

これまでの議論では、概ね下記の7点について、賃金引き下げの根拠、理由がないことを明らかにしてきました。

1. 今回根拠とされているのは閣議決定ではなくて、文科省の事務連絡による要請であり、お願いであり、閣僚懇談会という非公式の場での大臣発言であること。
2. 削減された人件費が震災復興に使われるのかどうか極めて疑わしくなっていること（7月18日付け通知、および、7月13日行政改革推進本部第6回会合における野田総理発言）。
3. 補正予算で運営費交付金が削減されるのかは不明であり、成立するまで待つべきであること。
4. 運営費交付金が削減されるとしても、その率が教職員人件費の平均7.8%となるかが疑わしいこと（2.と同様）。
5. 政府のやり方は直接的に使用者であるという振る舞いであり、労使関係への介入になる。簡単に政府の賃下げ圧力等に屈してはならないこと。
6. 合理的理由の無い不利益変更は労働契約法にも違反していること。
7. 更には、4、5、6月あたりに賃下げの先行した大学では、返金も考えるという動きになっていること。

その上で、組合としては、8月1日実施案を直ぐに強行されることに改めて断固反対し、団体交渉の継続を要求することを表明しました。

7月27日付けで出された「総長書簡」は、これまでの団体交渉でのやり取りを踏まえた「誠意」の示されたものとして、一定の評価はできるものです。しかしながら、国立大学全体での運営費交付金の削減額が300億円だとする、7月18日付けの文科省からの文書の内容を示さず、当初の給与削減率を維持したまま、7月23日の団体交渉、過半数代表への説明、部局長会議、評議会、運営協議会への附議を行っていたことが明らかになりました。

このような大学法人執行部のやり方・姿勢は誠実な交渉とは言えないものです。

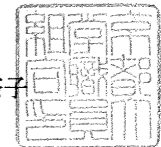
組合は、8月以降、賃金引き下げ分の請求要求を求めるとともに、法定闘争も辞さないという強い態度で、引き続きの団体交渉において奮闘するものです。

時間雇用教職員も特例夏季休業を有給に！緊急要求書提出

2012年8月9日

京都大学総長 松本 紘 殿

京都大学職員組合
中央執行委員長 高山 佳奈子



特例夏季一斉休業にかかる緊急要求書

今年度の特例夏季一斉休業日(※)における時間雇用教職員の給与の取り扱いについて、事柄の重要性に鑑み、下記の通り是正されるよう申し入れますので、善処いただきますようお願いいたします。

記

今年度(2012年度)の特例夏季一斉休業(※)における給与等の取り扱いについて、時間雇用教職員を除くとした昨年度と異なる労働条件上の取り扱いをやめ、非常勤職員の賃金・労働条件を改善する視点に立って、昨年度及び本学創立記念日と同様の取り扱いとなるよう、是正措置をとること。

※「平成24年度夏季期間中における教職員の就業に関する特例を定める規程」による休業

以上

京都南座「山田洋次の軌跡」

開催期間：前半 8/18～9/23 後半 10/6～10/24

ワンデイ・フリーパス組合員優待販売

前売券 1,500円、当日券 1,700円のところ
組合員優待価格 500円で頒布します

詳細は組合事務所までお問い合わせください

催事詳細 <http://ow.ly/d8WB6>

